

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	123-3 都市間交流推進事業(関連都市との交流)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本施策	54 地域資源を活かして、他地域と交流する	目	07	文化振興費
		細目	130	都市間交流推進事業
行革大綱の重点事項番号		7	細々目	51 都市間交流推進事業
担当部課	コード	11300	担当者氏名	福島 礼子
	名称	企画総務部企画課		
			連絡先	22 - 9621 (内線) 2115

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	芭蕉ゆかりの都市 東大寺の営造や再建などで歴史的に関係の深い都市	※対象件数
成果(どうする)	伊賀市の文化を発信し、相互の情報交換ができる。	
根拠法令・要綱等	奥の細道サミット規約、東大寺建立にかかわった市町村実行委員会会則	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業内容	「奥の細道」敦賀サミットに参加した。 東大寺サミットについては、隔年での開催のため21年度はなかった。	
社会情勢の変化等	全国伝統地名(旧国名)市町村連絡会議は平成19年9月末をもって退会した。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)		運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)	
1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積(延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
	奥の細道サミット参加	回	目標	1	1	1
			実績	1	1	1
	東大寺サミット参加	回	目標	1	0	1
			実績	1	0	0

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
	奥の細道サミット参加	サミットに参加することにより、芭蕉生誕の地伊賀市を広くPRすることができる。	回	目標	1	1	1
				実績	1	1	1
				目標			
				実績			

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	377	76			328		387	
Aの財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0	0	0	0	0	
一般財源	377	76	328	387				
事業投入人件費(B)	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	
フルコスト(A)+(B)	1,097	796	1,048	1,107				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)	
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	○	松尾芭蕉ゆかりの都市や、東大寺の営造や再建など、歴史的に関係の深い都市が参加するサミットに参加することにより、文化を発信する。
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業			
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業			
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業			
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業			
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業			
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業			
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】			
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業			
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】			
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○	サミットに参加することにより、全国に伊賀市をPRできる。
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種類】		
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	構成地域の広域連携を進め、観光振興と市民の交流につながる事業として継続するが、組織の見直し時に観光振興としてとらえるか検討する。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 検討の結果、今までどおりとなった。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	増田 基生
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 伊賀市の文化を広く発信し、サミットに参加する地域の相互の情報交換ができることから、事務事業を継続する。
現時点における課題、その他	今後も事業を継続していかなければならない。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	